

公益財団法人 日本骨髄バンク 第 52 回 業務執行会議 議事録

日 時： 平成 30 年 5 月 17 日（木） 17：30～18：00
場 所： 廣瀬第 2 ビル 地下会議室
出 席： 齋藤 英彦（理事長）、小寺 良尚（副理事長）、浅野 史郎（理事）
加藤 俊一（同）、鈴木 利治（同）、高梨 美乃子（同）、谷口 修一（同）
橋本 明子（同）
欠 席： 伊藤 雅治（副理事長）、金森 平和（同）、高橋聡（同）
陪 席： 瀬戸 愛花（厚生労働省 健康局難病対策課移植医療対策推進室 室長補佐）
長谷川 正太（厚生労働省 健康局難病対策課移植医療対策推進室 係長）
傍 聴 者： 2 名
事 務 局： 松菌 正人（事務局長）、五月女 忠雄（総務部長）、大久保 英彦（広報渉外部長）
小瀧 美加（移植調整部長 兼 新規事業部長）、折原 勝己（ドナコーデイナー部長）、
渡邊 善久（総務部 参事）、谷澤 魅帆子（ドナコーデイナー部 指導研修 TL）、
関 由夏（関東地区事務局地区代表）、上原 淳（総務部）

(順不同、敬称略)

1. 開会

開会にあたり齋藤理事長が挨拶した。

2. 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により本業務執行会議が成立した。

3. 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により業務執行会議の議長は理事長が当たることとされており、齋藤理事長が議長に選出された。

4. 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は業務執行会議運営規則第 8 条により議長及び出席した副理事長がこれに記名、押印しなければならないとされており、齋藤理事長と小寺副理事長がこれに当たるとされた。

5. 議事録確認

第 12 回通常理事会の議事録案を全会一致で了承した。

[議 事]

6. 協議事項（敬称略）

(1) 平成 29 年度事業報告の原案提示

五月女総務部長が資料に基づき説明した。

この事業報告は概況が冒頭にある。その後に各部門の詳細が記載されている。本日は概況について説明する。後半の部分は後程ご覧いただいたうえでご意見があれば事務局に申し出いただきたい。表紙をめくっていただき、概況である。日本骨髄バンクは平成29年度の事業計画に基づき「普及啓発事業」と「連絡調整事業」を推進した。1番、ドナー登録者数である。本年度の新規ドナー登録者は3万4990人で、前年度に比べ2731人増加した。登録者数は48万3879人となった。登録窓口別の内訳は、①献血併行型登録会が4823回実施で2万3348人、②日本赤十字社献血ルームなど固定窓口が1万612人、③集団登録会が27回実施で467人、④保健所その他が563人だった。献血の現場での登録が多くなっている。2番、移植数と患者登録数である。当法人が仲介した非血縁者間の造血幹細胞移植は計1241件で、前年度より9件減少した。累計移植数は2万1788件に達した。患者登録数は国内2118人、海外636人の計2754人で、いずれも減少傾向にある。移植件数の内訳である。国内ドナーから国内患者への移植は1233件であり前年度より10件ほど減少している。海外ドナーから国内患者へいただいたのは1件、国内ドナーから海外患者への提供は7件である。国内患者の移植率と呼んでいるが、同期間の新規患者登録数と移植数の比率は58.3%である。3番、事業の概況である。

(1) 組織運営、ピーク時と比べた移植件数の減少等により財政状況がひっ迫しており、経費節減に努めた。外部機関に協力する形で、適合経験のあるドナー1万人への大規模アンケートを実施した。個人情報保護対策の一環として「標的型サイバー攻撃に対する模擬訓練」を外注して職員向けに実施した。外部機関とあるが、これは研究班に協力したことである。個人情報保護対策の標的型サイバー攻撃に対する模擬訓練は少しややこしい言い方になっているが、いわゆる迷惑メールへの対応である。最近の迷惑メールは非常によくできていて、ちょっと見ただけでは本物のメールと区別しにくいものが多くなっている。業者にお願いして職員に向けてよくできたメールを出し、それを不用意に開けてしまう人がいないかをチェックした。(2) 普及啓発事業である。若年層を軸としたドナー登録の拡大に向け、ACジャパンのキャンペーンや大学での登録会、語りべ派遣、修学旅行生への講演等を実施した。企業のドナー休暇や自治体による提供ドナー助成といった社会的支援制度の普及を促した。動画投稿サイト「YouTube」公式チャンネルと公式Facebook、本年度新設のtwitterで随時情報発信した。各地でドナー登録の推進力となる「骨髄バンク推進連絡会議」の再構築を働きかけた。「骨髄バンク推進連絡会議」は各自治体において、自治体、日赤、当法人、ボランティア団体等で構成している。地域によって非常に活発に活動しているところ、活動が低調なところがあるので、とくに低調なところに対しては活発になるように働きかけを行っている。(3) 連絡調整事業である。コーディネーター期間短縮に向けた施策を、造血幹細胞移植推進拠点病院や厚生労働省などと連携して検討した。コーディネーター開始ドナー人数を現状の最大5人から10人に増やした。また患者側が希望する移植最適日の調整に関して、手順を詳細に見直し、適宜変更した。昨年度に引き続き「造血幹細胞移植支援システム」構築を各関係者と協力して進めた。以下は管理部門、各事業になるがこちらは後程御見通しいただきたい。もう一つある参考資料には骨髄バンク事業に関する各種の数字をまとめた。こちらも後程御見通しいただきたい。

以上の説明の後、意見交換が行われた。

(主な意見)

<齋藤> これは原案なので、いろいろ御意見をいただき次回の理事会で承認いただく。

<小寺> 1頁の下から3行目と4行目のところ、前にも言ったが、「自治体による提供ドナー助成といった社会的支援制度の普及を促した。」と書くのが適切かどうか。理由はこの前も申し上げたが、バンクの公的な立場として「支援制度に関

する必要な情報を提供した。」とか、ちょっとそこを直すか、厚労省も来ているので文言について確認した方がいい。

<五月女> もう一度検討する。

<橋本> 骨髄バンク推進連絡会議の議題は一律に決まっているのか。

<大久保> これは各県によってテーマが違う。どのようにしてドナー登録を増やすか、普及啓発をしていくかなど、そういうことを中心に各県でいろいろな協力体制を組んでやっていきたいと思いますというもので、だいたい年に1回しているが、現状では25~26で全都道府県の半分くらいしかできていない。それがないところでは登録事業も低迷している。

<橋本> ないところを開いてくださいというときにはどのように働きかけるのか。

<大久保> 現状では広報渉外部の登録会担当が地区割で持っている。進んでいないところについては訪問して、進んでいる地域の事例やメンバー構成を紹介して設置してくださいとお願いしている。予算がないから等いろいろな言い訳があるが、そんなにお金はかからない。県内では委員を呼ぶための交通費もそれほどかからないので、予算がつくまではバンクが負担するというようなことで進めていきたいと考えている。

<高梨> 開始コーディネーター人数は29年度に増やしたのか。

<五月女> 実際に増やしたのは今年度に入ってからである。増やすことを決定したということであるので、その表記をもう一度考える。

<小寺> 2頁の上から2行目、「拠点病院や厚生労働省などと連携して」と書いてありその通りなのだが、ここでは厚生労働科学研究班の役割が非常に大きかったので、概況にも入れてはどうか。

<五月女> わかりました。

<松蘭> 御意見がある場合はメールで連絡いただき、手直したものを6月の理事会の議案という形で事前に送るので、それでもう一度見ていただく。実際には6月の理事会で審議いただき決定する。

7. 報告事項（敬称略）

(1) 診療報酬改定に伴う施設との合意締結状況

渡邊総務部参事が資料に基づき説明した。

診療報酬改定に伴う施設との合意締結状況の第2次報告である。前回の業務執行会議で、合意締結施設129施設と報告させていただいた。今日現在では157施設から合意書が届いている。残り25施設は総務部で督促をかけている。4月分55万円の請求書は今週発送していて、とくに混乱は生じていない。裏面に合意書のサンプルをつけている。

（主な意見）

<齋藤> これはなるべくよく説明して理解していただくことになる。

(2) 調整医師の新規申請・承認の報告

谷澤コーディネーター部TLが資料に基づき説明した。

4月17日から5月9日の期間に新たに申請・承認された調整医師の人数は6名、合計で1158名になった。

(主な意見)

<齋藤> 調整医師の数が1000人を超えることになって、新しい人はいいとして何年もやっている方には「今年もお願いします」とか毎年連絡しているのか。

<谷澤> 自動的に更新になる。難しい場合に連絡をいただく形になっている。

<加藤> 前にも申し上げたが、私もまだ含まれている。実際に役にたっていないと申し上げることになるが、一度ちゃんとアクティブに動ける方で整理した方がよい。どこかでやらなきゃいけないと思う。

<齋藤> たしかにかなり年齢をいってアクティブでない方も、名簿だけで数えている人もいると思う。それは確認した方がいい。急がないのでお願いしたい。

(3) 募金報告

大久保広報渉外部長が資料に基づき説明した。

4月の募金報告である。件数は389件、金額は429万8千円であった。昨年度は左側にあるように1283万7千円であったが、昨年は個人の遺産相続で1千万円あったのでそれを除くと若干プラスになっている。金額でいうと853万8千円マイナスであった。個人で50万円の一般寄付と、あと患者の家族から50万円、それから三菱UFJニコスからも毎年この時期にいただいているが34万3千円、桜美林中学高等学校の吹奏楽部から定期演奏会で11万7千円の寄付をいただいた。

(4) 共催フォーラム

橋本理事が口頭で説明した。

つばさ、骨髄バンク、福田班の共催フォーラムが5月19日に開催されたので報告する。講師の方々の熱心な話は本当に感動的であった。時間も1.5倍くらいかかった。質問も捌ききれないくらいたくさん来て、非常に盛況であったと言ってよいと思う。すでに来年はうちでという申し入れもある。今日は時間がありそうなので、会場で読み上げた元患者の感想をここでも読ませていただきたいと思います。この企画が日本骨髄バンクからの移植の広報だけではなく造血幹細胞移植全体の成果をみんなで共有しようとなればよいなと思っていたが、凶らずも臍帯血移植を2016年8月にして現在良好に過ごしている44歳の女性から感想をいただいた。移植医療全体のことなので読ませていただく。「2016年の7月のつばさフォーラムに参加しました。当時はMDSについて移植について情報を求めていました。毎日不安口調で迫りくる死の影に、ささいなことで不安に見舞われていました。もうすぐ移植して2年が経ちます。とても元気になっております。半年の就職活動を経て、今月ようやく就職先が決まりました。今日の黒澤先生のお話で、GVHDが軽傷で精神面のQOLが高めという移植医療のデータが示されましたが、そのことを実感しております。」そのような感想をいただいたので報告する。

以上